令和4年度 第1回学校関係者評価委員会

日 時：令和4年10月7日(金)19:00～19:50

場 所：長崎医療技術専門学校 会議室

出席者：小林小夜子，有福浩二，大坪 健，吉岡正恒，栗田千栄

分部哲秋，韋 傳春，林勇一郎，荒木一博，岩永隆之，早野和之

欠席者：なし

座 長：韋

1. 出席者紹介

2. 校長挨拶

- ・入試の状況報告（総合型選抜、指定校・推薦の出願者数）

総合型選抜入試は終了しPT7名，OT2名の入学が確定している。

指定校・推薦入試は本日が願書締め切り日となっており，PT32名，OT22名の願書が提出された8年間で最高であり，残り3回の一般入試で80名集まるように頑張っていきたい。

3. 前回会議後の報告

韋) 進路ガイダンスは、令和3年度が14件実施(コロナで9件中止)、令和4年度は19件実施(台風で1件中止)で、今年度はコロナの影響はなかった。その結果もあり、受験者数増につながっていると考える。

荒木) 学校行事は、3学年での交流を図る行事「医技専さるく」を4月下旬に半日だが実施でき、学生の交流が少しできたのではないかと。また昨年実施できなかった風頭公園の清掃活動(アダプトプログラム)は、5・6月に実施できた。

9月には専修学校スポーツ交流大会が3年ぶりに行われ、1年生の希望者のみ出場した。

現在は、3年生の就職活動のためのハローワークによるセミナーや、オンラインによる施設の説明会などを実施している。

感染予防を行いながら、徐々にイベント等を再開している状況である。

4. 開会

当委員会第6条の規定による出席数を満たしており、本委員会は適切に成立していることを確認する。

5. 委員長選出

委員長は小林小夜子先生ですすめさせて頂く。

6. 審議事項

『令和4年度保護者アンケート結果について』(別紙資料)

岩永) (資料に沿って説明)

9/1～10/2の期間で保護者アンケートを実施した。昨年までは紙媒体とGoogleフォームで行っていたが、本年はGoogleフォームのみで実施した。

回収率は40.0%であった。

「質問1:学校のスケジュールや学校行事の様子がわかる。」では、「そう思う」「ややそう思う」が44.1%であった。

「質問2:学生はわかりやすい講義を受けていると感じる。」は、「そう思う」「ややそう思う」が64.7%で割とよい評価をいただいている。

「質問3:学校は学生の安全管理や健康管理に配慮していると思う。」では、「そう思う」「ややそう思う」が86.4%で、良い評価をいただいている。

「質問4:担任や教員は学生からの相談に対応していると感じる」では、「そう思う」「ややそう思う」が82.3%で、かなりいい評価をいただいている。

「質問5:学校での学習指導は家庭学習に活かされていると感じる」は、「そう思う」「ややそう思う」が79.4%でいい評価をいただいている。

「質問6:社会人や医療人としての人間性を育む教育が行われていると感じる」では、「そう思う」「ややそう思う」が85.3%で、いい評価をいただいている。

「質問7:保護者からも学校や担任に連絡がとりやすい環境であると感じる」は、「そう思う」「ややそう思う」が58.8%であった。

大半が割といい評価をいただいている印象であるが、部分的に厳しい評価もあると思う。

「質問8;自由記載」良い意見もあるが、厳しい指摘の意見のあり、ほぼ原文のまま掲載している。

岩永) 様々な意見をいただいているが、データとしての比較を過去4年分で行った。(別添資料)

本年の回収率が低いのは、紙媒体を中止しGoogle フォームのみにしたこと、周知できなかったのではないかと考える。

各質問項目の「そう思う」を5、「そう思わない」を1と5段階に置き換え、満足度として集計し、比較した。

「質問1:学校のスケジュールや学校行事の様子がわかる。」については、常に60%台で、保護者の満足度が低い項目となっている。次に低いのが「質問7:保護者からも学校や担任に連絡がとりやすい環境であると感じる」についても、保護者から見ても物足りないものになってしまっているのではないだろうか。

「質問2:学生はわかりやすい講義を受けていると感じる。」は大きな課題でもあるが、問題が一つだけとは限らないと感じている。

コロナ禍前の2019年を比較のため掲載したが、あまり変化はみられなかった。コロナ禍でもWEB等を利用してそれなりの対応ができたものと感じている。

章) 「質問1:学校のスケジュールや学校行事の様子がわかる。」については、前回の会議でも話題となり、メールメイトを1年前に開設したが、あまり利用者は増えていない。他の連絡手段としては、年2回の広報誌とホームページ、学生所持のタブレットを通じての保護者への連絡を行ってきたが、あまり数字には出ていない状況である。

大坪) 保護者アンケートを取られて、すごく対応に工夫されているのではと感じた。

2022年度のアンケートをみて、どの項目も「あまりそう思わない」「思わない」が少数意見あるが、この意見に対してどんな対応をする予定なのか、またそのことをどのように公表していくのかお聞きしたい。

章) 数年前にご指摘があり、ご意見とその対応を原則ホームページに掲載するようにしている。

吉岡) 「実習先が遠方であったり近場であったり」という意見があったが、その仕組みはどうなっているのか。

林) 在学3年間での実習が、1年生は1週間、2年生は3週間と4週間、3年生は8週間が2回と計5回ある。県外の施設や、県内であっても宿舎を利用する施設があり、3年間の中で県外や宿舎利用を経験してもらうようになっている。交通費は学生負担だが、宿舎費は実習費で支払っている。実習場所により交通費の違いが出てしまうが、その辺の費用は実習費で賄えないのが実情である。実習指導者への謝礼金も他県よりも安い状況の中で実施している。そのため、交通費までは賄えないことで不満が出ているのかもしれない。宿舎費は実習費からで、交通費は自己負担ということは開示していいと思う。実習配置については、指導者や施設の特性や、学生の希望などを配慮しながら決めている。

小林) 今回の意見はどの学年の保護者からなのか。1年生と3年生の場合ではその意味も違ってくるので、分析をした方が良く考える。

岩永) 実習がすべて終わった3年生の保護者の意見である。

小林) 交通費だけの問題だろうか。

韋) 他の学生と比較することができないので、自分のところだけ負担が大きいと思われたのかもしれない。

岩永) 特に3年生の実習では、学生が求めるセラピスト像を伸ばせる施設に配置できるように考えている。ただ、交通費については後回しになっているところもある。

小林) 私自身も幼稚園実習等にもかかわってきた。参考になるか分からないが、交通費も含めて実習費をプールし清算する形をとっていた。含めた費用を上乗せして集めなければならなくなるが、不公平感は減るのではないだろうか。

韋) 配置については、学科内で検討して決めているが、毎年同様な意見が出ている。

栗田) 九州各県に実習先があるが、学生一人ひとりの為に手配をさせていただいていることだと思う。息子も福岡に2か月間行っていたので、20代になったばかりで日常生活をしながら実習にも取り組むということで、大変な経験をしているのだらうと感じていた。私自身は看護師なので、看護の実習は5~6人のグループで仲間がおり、先生も同行するので相談しやすかったりして心強かった。貴校の実習は一人ずつで臨むので、自分で挨拶に行ったり、実習を乗り越えるというのはすごいことだなと感じていた。各々の学生が実習を乗り越えるためには先生方のお力もあったと思うし、「質問4：担任や教員は学生からの相談に対応していると感じる」では例年高評価を貰っているので、先生方がサポートしていただいた結果ではないだろうか。

実際にどのような感じでサポートしていただいているのか、お聞きしたい。

林) 学生のことをよく知っている教員が対応した。また、親身になってやり取りができる教員と指導者の関係性による配置や、実習時間後の学生と教員の連絡などが主なものであった。学生が指導者に話せないでいる時、或いは指導者が学生に伝えにくい場合は、教員が代わりに伝えていくなどの対応も行っている。これらはどの学生にも行っている。

ただ、学生側が未熟で教員も指導者側の立場に立たなければならぬときに、指導がうまく行くときもあれば、かばってもらえなかったと感じられることがあるのも実情である。

状況により対応する教員を変更した方がいい場合などは、学科で調整し、速やかに対応するようにしている。

荒木) 全学生を教員が分担し、実習前の相談から実習中の連絡など責任を持って対応している。担任に相

談がある場合もあるし、連絡を取る中で学生に関わった方がいいと感じられたときは随時関わる姿勢でいる。

章) 指導者と密に連絡を取っている場合もあり、指導者を通じてフォローしている場合もある。実習巡回も行っているが、コロナ禍で訪問できないときは Zoom などを利用し対面でコミュニケーションをとることもできている。

有福) データは全体となっているが、学年ごとの違いや傾向はあるのか。学年ごとの傾向が解れば、対策なども考えやすいのではないだろうか。

岩永) 学校の様子が分かりにくいなどは、学年による違いがあるかもしれない。上級生のほうがアプリの classroom など使い慣れているので、レスポンスはいいのかなと推測できる。学年別の傾向を分析してみたいと思う。

7. 総評

小林) 保護者のアンケートについて話しがあったが、回収率が 80%位あった方がより信憑性が出るのではないだろうか。少ない意見でも対応していることはホームページで周知していいのではと感じた。40%の回収率からでも読み取れることをしっかり検討しているので、意見を精査していくことが学校評価には大切なことだと思う。

データ回収後の短い期間でよく整理されたなと感じた。

8. 謝辞

分部) アンケートの回収率が低いことについては努力していく必要があると感じている。また、意見も精査していくことが重要と感じた。

意見をたくさん出していただいたので感謝している。

9. 閉会

章) これを持ちまして令和 4 年度 第 1 回学校関係者評価委員会を閉会する。

次回の学校関係者評価委員会は、令和 5 年 3 月 24 日(金)を予定する。